

イカリモンハンミョウ

コウチュウ目ハンミョウ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

Cicindela anchoralis Chevrolat

選定理由

本州における生息地は石川県のみで隔離分布している。現在の生息地は狭く、約2kmの海浜に限られ、車の乗り入れや密漁が絶えないため、絶滅の危機に瀕している。

形態

流線型の体と細長い足を持ち、体長12~15mmの大きさである。体背面は茶褐色で、上翅には白いイカリ状の斑紋を持っている。

国内分布

石川県、大分県、宮崎県および鹿児島県の本土部と種子島に分布する。

県内分布

かつては金沢市から志賀町まで広く分布していたが、現在は羽咋市と志賀町の海岸の一部にのみ生息する。

生態

幼虫は、海浜植物帯より汀線側の砂地に垂直に穴を掘り、生活している。成虫になるまで2~3年かかるものと思われる。成虫は6月下旬より湿り気のある砂地に出現し、8月上旬までに交尾、産卵しているが、少数の個体は8月末ないし9月上旬まで見られる。

生息地の条件

海浜植物帯から汀線までの間が長くゆるやかな傾斜を持つ砂浜であり、砂の粒子がかなり細かいことが重要である。また、背後に海浜植物帯や松林などの植生が存在することも重要である。

生存の危機

海からの砂の供給が少なくなり、海浜が狭小化している。砂浜への車の乗り入れや海水浴客の増大により個体数が減少している。防波堤などの人工物の造築および海浜植物帯や背後の松林の消失は生息環境の破壊につながる。これらの人為的影響や環境変化を最小限にとどめるような保護対策を強力に施すべきである。さらに今後の生息個体数の推移によっては、系統維持のための累代飼育が必要になる可能性がある。(A)

特記事項

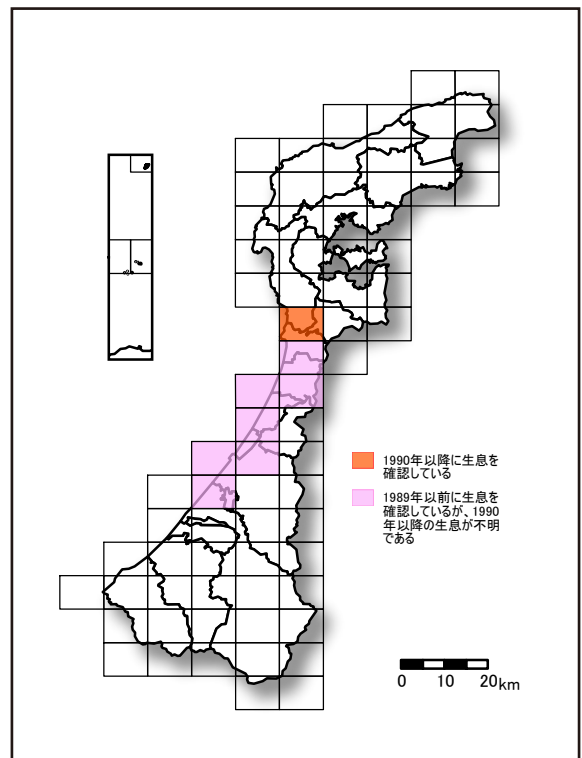
石川県指定天然記念物、石川県指定希少野生動植物種(2005年)に指定されている。内灘町の天然記念物にも指定されているが、現在は生息していない。

参考文献

- 大塚外次 1936. イカリモンハンメウに就いて. 昆虫界, 4 (33) : 787-789.
中根猛彦 1973. 日本の甲虫(2). 昆虫と自然, 8 (10) : 7.
富沢 章 2001. イカリモンハンミョウの加温飼育. とっくりばち, (67) : 10-11.
徳本 洋 2003. 石川県におけるハンミョウ類の古い記録. とっくりばち, (70) : 15-16.



写真提供者: 富沢章



県内の分布